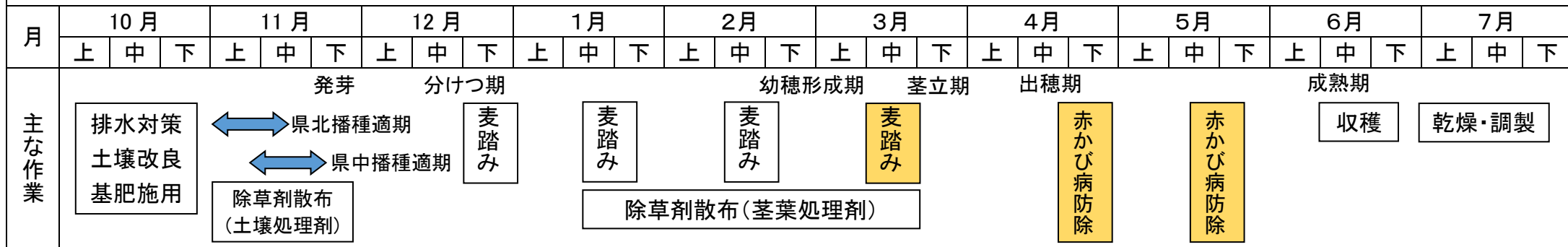


<適期作業のポイント>

①排水対策の徹底 ②土壌分析の実施 ③麦踏み3回以上の実施 ④赤かび病防除の徹底



1 ほ場の選定・排水対策
 ◎排水良好なほ場を選び、**ほ場周囲に明渠**を掘り、排水溝につなげる。

2 土壌改良
 ◎土壌分析に基づき施用量を決定する。施用例は以下のとおり。
 (例)苦土炭カル 60~100kg/10a (目標 pH6.5)
 OM-37 毎年 80~100kg/10a
 牛ふん堆肥 1t/10a

3 ほ場準備
 ◎作土深を目標にロータリー耕を行う。
 ◎砕土を丁寧に行う。砕土が不十分だと出芽不良、除草剤の効果が低くなる。

4 施肥量
 ◎窒素成分で水稻跡 **10~11 kg/10a**

5 種子消毒
 ◎**必ず種子消毒**を行う。

6 播種量、播種時期
 ◎播種量: **7~8kg/10a**
 ◎播種時期 県北部(矢板市、塩谷町、那珂川町) : **11月1日~15日**
 県中部(高根沢町、さくら市、那須烏山市) : **11月6日~20日**
 ・年内に3~4葉期を確保し、麦踏みを行えるようにする。
 ・倒伏防止のため、**播種深度は2~3cm**とし、極端な浅播きは避ける。

7 麦踏み
 ◎**年内に1回、年明け後から茎立期直前までに3回**行う。
 ◎特に品質向上のため、**必ず茎立期直前に麦踏み**を行う。
 ・分けつの増加、凍上害防止、良好な穂揃い、成熟ムラ防止等の効果がある。
 ・土表面が乾いている時に行う。乾き具合の目安は靴の裏に土がつかない程度。

8 雑草防除
 (1)播種後、全面に土壌処理剤を散布する。
 ◎雑草茎葉散布が可能でイネ科雑草に有効な剤は、使用時期の晩限が**最長で麦2葉期まで**と限られているため、**播種後の全面土壌処理剤**による防除が重要である。
 (2)その後の雑草発生程度により生育期処理を行う。
 表 広葉雑草に有効な主な薬剤例 (登録情報:令和6年11月5日現在)

薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	HRAC
ピラフルフェンエチル水和剤	雑草茎葉散布又は全面散布	小麦節間伸長開始期まで(広葉雑草2~4葉期、ヤエムグラ2~6節期)但し、収穫45日前まで	2回以内	H:14
ベンタゾン液剤		生育期但し、収穫45日前まで	1回	H:6
MCPA ナトリウム塩液剤		幼穂形成期但し、収穫45日前まで	1回	H:4

※農薬使用の際は最新の登録情報を必ず確認する。

9 赤かび病防除
 ◎**1回目散布は開花始(出穂期の数日後)、2回目散布は1回目の20日後**に行う。
 ・多発の恐れがある時(登熟期連続降雨)は、3回目の防除を行う。

10 収穫
 ◎**穀粒水分30%以下、成熟期(注)から2~3日後頃**で収穫を行う。
 ・目安:ほとんどの穂首が黄変して粒がロウ程度の硬さとなった頃
 ◎赤かび粒が発生した場合、**必ず刈り分け**を行い、製品に混入しないようにする。
 (注)成熟期:穂首が黄化し養分の転流が止まった時期・穀粒水分40%程度